

意岐部中学校区のめざすもの

夢づくり教育のはじまり

10年以上前、中学校区の合同学習会の時に、こんな問いかけがありました。
「自分の前にいるこの子が20歳になったとき、どんなおとなになってほしいか」
この問いかけに対して、すべての教職員で意見を出しあい、中学校区で統一した
「めざす子ども像」をたてました。「この子」をイメージしながら、具体的にめざす子ども像の話し合いを進めていきました。一人ひとりの真剣な意見のぶつけあいの中で、校種をこえて理解しあえることを実感できました。子どもたちの実態を見つめていく中で出てきたキーワードは「夢」「生き方」。教職員の思いを込めてできた意岐部中学校区のめざす子ども像は

「自分の夢・生き方を創りつつける子」でした。

「成長に必要な適切な段差は残しながら小中の段差をできるだけ少なくしよう」「常に教職員が子どもの成長を語り合おう」「子どもを見守る視点を一致させよう」と中学校区の教職員で確認をし、夢づくり教育がはじまりました。

夢づくり教育とは

夢づくり教育とは「自分の生き方を切り拓くために、今までの自分の歩んできた道をふり返り、その過程で次の一步をどの視点に立って踏み出すべきか、その選択ができる力をつけること」というキャリア教育の視点をすべての教育活動に取り入れ、子どもが自分の夢や生き方を創っていく力を育むことをめざす教育のことです。

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育のあり方について（答申）」（平成23年1月31日）では、キャリア教育の定義を「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育」としています。

子どもの実態から、つきたい力を考える「めざす子ども像」の実現に向けて

めざす子ども像=ゴール

自分の夢・生き方を創りつつける子

今の子どもの姿とめざす子ども像との「差」こそ私たちがとりくむべき課題です。
その課題を解決していくために、子どもたちにつきたい力が夢づくり教育における7つのつきたい力です。

7つのつきたい力

課題

今の子どもの姿=スタート